

ジュニカレ新聞

2017年12月10日(日)
ジュニカレ新聞記者グループ

【講師】

重里徹也(聖徳大学文学部教授)

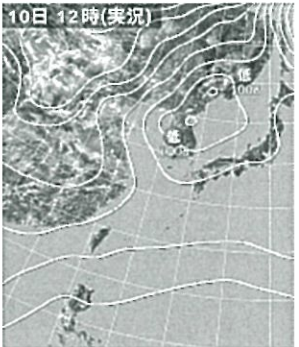
【新聞記者担当企画委員】

黒田優香(聖徳大学文学部2年)
斉藤涼花(聖徳大学文学部2年)

【子ども記者団】(50音順)

岩館 莉花、杉田 結菜
杉本 歩優、中山 碧
萩谷 倭志、堀口 鼎

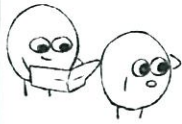
発行所: 聖徳大学生涯学習研究所
レイアウト: 有川かおり(聖徳大学生涯学習研究所助手)



輝く聖徳ライフを聞く

3回目を迎えた「ジュニア夢カレッジ」(聖徳大学生涯学習研究所主催)。今年も約200人の小、中学生が計14種類の職業体験に取り組んだ。「思っていたよりずっと楽しい仕事だった」「将来を考える参考にした」。子どもたちが社会を知り、夢をはぐくむ1日になった。

「新聞記者」のセクションには6人の小学生がチャレンジした。2人の聖徳大学文学部生にインタビューして、楽しさあふれるキャンパスライフを取材した。受講生たちが執筆した記事を1つにまとめて披露しよう。



「やらないで後悔するより、やって後悔した方がいい」「好きな言葉はアニメの主人公が言っていた」「やるったら、やる」です。聖徳大学文学部図書館情報コース2年、斉藤涼花さん、黒田優香さんが記者会見に応じ、自分の生きる姿勢や大学生活の楽しさを語った。

斉藤さんは静岡市出身、黒田さんは群馬県高崎市出身。ともに親元を離れ、図書館司書をめざして勉学に励んでいる。

斉藤さんはラベンダー色の明るいニット姿。みんなにキラキラの笑顔をふるまってくれる女性だ。パソコンや剣道、ニュース検定など、さまざまなことを得意にしている。「祖母が図書館司書をしていてカッコよかった。5歳の時から司書にあこがれていました」と語る。優しい笑顔は高校時代にローソンのアルバイトをして身に着けたようだ。

黒田さんは名前の通り、黒が好きで上から下まで真っ黒の服装だ。アニメやゲームが大好きで、剣道初段。オーブンキャンプで明るい雰囲気を受けてひかれ、聖徳大を選んだという。卒業後は「水のおいしい」高崎に帰って暮らしたいという。

2人は口をそろえて「1人でいると寂しいことがあります」と話しながら、それぞれ、学びの楽しさを語る。斉藤さんは「中国文化研究会で、中国将棋など日本とは違う文化に触れることが楽しい」、黒田さんは「シリーズコンサートでは世界中のオーケストラが聴ける。社会人として必要な基本を学べる小笠原流礼法は本当に役立ちそう」と充実した学生生活を話した。意外だったのは、斉藤さんが髪を伸ばしている理由だった。小児がんを患って放射線治療で髪を失った子どもたちに寄付するためだというのだ。



将来の目標をたずねられると「話しかけやすく、親しみやすい司書になり、親しみやすい図書館をつくりたい」「図書館中の本を知り尽くし、訪れた人たちに親切にアドバイスしたい」。優しさと楽しさと夢がいっぱいの2人の会見だった。